

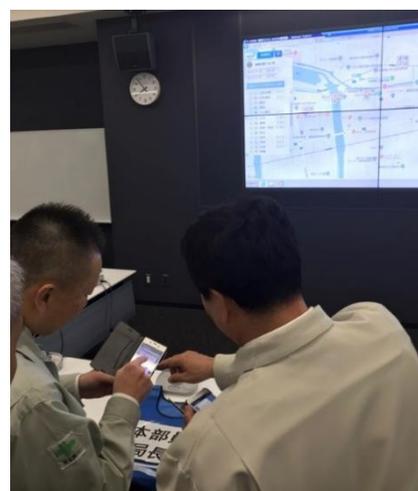
高松市にて「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』」を活用した訓練を実施

AI 防災協議会(理事長:江口 清貴)は、2019年11月26日、香川県高松市と共同で、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社ウェザーニューズ、LINE 株式会社が研究開発している「LINE 版防災チャットボット^{※1}『SOCDA^{※2}』」を活用した「令和元年度高松市職員非常参集訓練」を実施しました。

本訓練は、大規模地震の発生による交通の混乱や、公共交通機関の運休に備えた実践的な非常参集訓練で、午前6時30分に高松市で震度6強の地震が発生し、市内各地で被害が発生したと想定して行われました。

地震発生直後に災害対策本部から職員へ参集を指示するメールが配信され、それを受けた職員が勤務場所に参集し、その途中で、訓練用に設けたLINEのアカウントを通じ、被害状況を文字や写真で投稿しました。投稿された情報をAIが整理、集約して地図上に表示し、災害対策本部は迅速に市内の被害状況を把握しました。

本結果を受け、高松市職員の初動体制の検証を行い、より実効性のある動員配備計画に役立てていただくとともに、「LINE 版防災チャットボット『SOCDA』」のブラッシュアップを図ってまいります。



大西市長による訓練講評



AI 防災協議会 福島事務局長による報告

「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』イメージ図



<参考>

※1 チャットボット:自動応答コンピュータープログラム

※2 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCIal-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者:NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。